

2006年10月22日（日）

セッション名：医療4

## 国民健康保険における医療費の集中と持続性\*

法政大学経済学部、法政大学大学院エイジング総合研究所

小椋 正立

法政大学大学院エイジング総合研究所

川瀬 晃弘

東京学芸大学教育学部

鈴木 亘

2006年10月

### 概要

本稿では、国民健康保険における個人間の医療費分配の実態を把握するとともに、今回の医療制度改革で拡大されることになった高額医療費の再保険事業の効果を把握する。分析には、三重県の国民健康保険団体連合会により提供されたレセプトデータを使用した。分析の結果、次のことが明らかとなった。①国民健康保険は組合健保と比較して医療費の集中度と持続性の程度が同程度かそれより大きく、高齢になるにしたがって分布の上位に属する者の割合が増えるとともに、高額医療費の持続性が高まる。②高額医療費は特定の地域に発生し持続するため、高額医療費の再保険によって保険者間の医療費負担は平準化されるものの、一方的な財政移転になっている。③年齢による事前的风险調整と比較して、高額医療費の再保険は過度に医療費負担を調整してしまう可能性がある。事前的风险調整と事後的风险調整のどちらの制度を選択するか、あるいはこれらをどのように組み合わせるかは、結果の平等を求めるのか、インセンティブを重視するのかによって異なることになる。

---

\* 本稿の分析に使用したデータは、三重県国民健康保険団体連合会よりご提供いただいた。記して感謝の意を表したい。本研究は、厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）「生活習慣と健康、医療消費に関するマイクロ計量分析」（主任研究者・小椋正立）から助成を受けている。